

Acroporidae ミドリイシ科

Acropora ミドリイシ属

***Acropora* sp. HD2**

(Figs. 1-5)

ナンヨウクシハダミドリイシ 新称

(図 1-5)





図 1, 2. AMM121. 奄美大島実久, 水深 4 m. 2016-10-06. 鈴木豪.

図 3-5. AMM123. 奄美大島実久, 水深 4 m. 2016-10-06. 鈴木豪.

形態：群体はテーブル状。群体の中心から水平枝が長く放射状に延びて、時々融合する。水平枝から垂直に短い枝が密に分岐する。群体中央部では、水平枝が融合してプレート状になる。

識別点：他の隠蔽種に比べると、群体形がきれいなテーブル状にならず、凸凹が多い印象。温帯タイプに似るが、垂直枝の分枝がより多いことで区別できる。ミトコンドリアの分子系統解析では、同所的に見られる *Acropora papillare* サンカクミドリイシと同じ配列を持つので、近縁な可能性が高い。

分布と生態：琉球列島全域に分布する。

新称和名：杉原ら (2015) において、クシハダミドリイシ種複合体は、主に和歌山から鹿児島島の太平洋側沿岸 (いわゆる温帯) に優占する *A. spicifera* クシハダミドリイシと種子島以南に優占する *A. hyacinthus* ナンヨウミドリイシに整理された。しかし、ナンヨウミドリイシには、さらに複数種が含まれる可能性があるため、本稿では採用しなかった。また、*A. spicifera* についても、温帯タイプと種子島以南で集団が分かれる可能性があるため、形態的に *A. spicifera* に近く、種子島以南に生息する種について、*A. sp. HD2* と整理し、新たにナンヨウクシハダミドリイシと称することを提案する。和名基準標本は、AMM121 (図 1) である。

和名提唱日：2023-11-12.

備考：*A. spicifera* として同定されている種の可能性が高い。温帯タイプおよび *A. sp. HD1* タイラクシハダミドリイシと同種かどうか、更なる検討が必要である。

引用文献：

杉原薫・野村恵一・横地洋之・下池和幸・梶原健次・鈴木豪・座安佑奈・出羽尚子・深見裕伸・北野裕子・松本尚・目崎拓真・永田俊輔・立川浩之・木村匡 (2015) 日本の有藻性イシサンゴ類. 種子島編. 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター, つくば. [[国立環境研究所](#)]

執筆者：鈴木豪

Citation :

[JP] 鈴木豪 (2023) *Acropora* sp. HD2 ナンヨウクシハダミドリイシ. In: 日本造礁サンゴ分類研究会, 日本産有藻性サンゴ類 WEB 図鑑.

Accessed at: https://coralmonogr.jpn.org/Acropora_sp_HD2.html on 2023-11-12.

[EN] Suzuki G (2023) *Acropora* sp. HD2. In: Japanese Society for Coral Taxonomy. Online Monograph of Zooxanthellate Corals of Japan.

Accessed at: https://coralmonogr.jpn.org/Acropora_sp_HD2.html on 2023-11-12.

更新履歴 :

2023-11-12 公開